

新編中等習字帖

下



K220.72

65

3



新編中等習字帖
下

玉武至反度交

手通通交安安

古寺有良夢

寺子海海州

淨成擇呈杯復前略與音深情
高堂世家錦地望書貴殿富才

清福機嫌欣喜大慶消光罷在
乍憚放念省慮陳者初愈益彌

車東來成峯峯

谷谷谷谷谷

五下中

五下中

先達過船近頃未幾早達京師
委細承知在援以支各處生禮

依賴照會無厭難於承辦恐縮
此段亦不取親展至急付史

あなをいふこと

中下

お前をいふこと

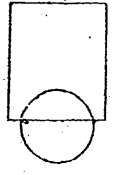
備滿歸烟綫綫

中下八

戒戒戒戒戒

いづれは半に半は本へ入るとや。
ちより里ぬ思ふ家を越わこか。
よ代たふれまうふつねねま。
な形らつねむ年うある井。

の然たをくもや屋まろけ。
ふ希こ都江えてすあ何き料。
きたゆあぬえみえし志忍南。
ひ心も我世形すけ。



送り状

一箱包 五個

右本日内國通運會社に送り状
申付伺到着の上は査収とされ居る也

大正二年十月廿九日

仙臺市大町三丁目

柏木録之助 印

長崎市平戸町五番地

水野清一郎 殿

正其義不謀其利

明其道不計其功

本月何日付の書状を見送る
は書面の趣意を承知する

愈々多祥之段を祈賀候
益々隆盛之由目迄及存候

治家以勤儉為先

待眾以謙和為首

先づは依頼までお掛けに座候
此後お照會に任じたい也

何れ詳細に期お届申候
猶お顔の上より後より也

陽氣散處金石亦透

精神一到何事不成

人の一生は重荷を負ひて遠き道を行くが
如し急ぐ愈々不自由と常と思へば
不足那し心は望起らば困窮志多難
と事思ひます愈し堪忍と事事

長久の基怒を敵と思へ勝つことなきを
知ると敗るるあやうき心は事多
身は刻る己と責めて人言を正し
及ばざるは過きあるなり ことごとく

休道他鄉多苦辛
月袍有友自相親

柴扉曉出無霜如雪
君汲川流我拾薪

君の代もふたつとちひさしき
はるかにふたつとちひさしき

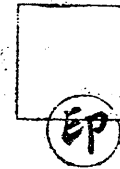
ちひさしきふたつとちひさしき
はるかにふたつとちひさしき

千歲恩讐兩不存
風雲長為弔忠魂

客窗一夜聽松籟
月黑楠公墓畔村

山嶽可崩海可翻
不消四十七臣魂

墳前滿地蒼苔濕
盡是行人流涕痕



委任状

拙者儀都合に依り織田純三郎ヲ部
理代人ト定メ拙者ノ名義ヲ以テ左ノ權
限ノ事ヲ代理致サセ候事

一日本勸業銀行株式ノ名義書換
關スル一切ノ件

右代理委任状依テ如件

大正三年十二月一日 金澤市本多町五番地

栗村梅松 印

勿謂今日不學而有來日
勿謂今年不學而有來年

日月逝矣歲月不我延嗚
呼老矣是誰之愆

中下ノ
23頁 欠

履歷書

東京市麹町區上二番町六番地
平民杉野直長男

杉野正太郎

明治貳拾八年壹月五日生

一明治四十一年三月東京市立番町尋常小學校ヲ卒業シ同年四月東京府立第一中學校ニ入學シ大正二年三月卒業ス

一大正二年四月三井物産會社雇員トナリ傍ラ夜間何々學校ニ通學英語ヲ修ム

右之通り相違無之候也

大正二年十二月二十五日

右
杉野正太郎

印

新年の慶多きこと多く

中納言の位は日様も揃ひ様

様も越えぬはさる様

事には極上存上り様

は新年の無事加年

神の百福のたまはる様

なされぬは尚古慶なり

市春願の程祈ふ先以て

年始めは祝詞申あげて

此より佳候謹言

一日元旦 池田家吉

松上鶴太郎様

一汽車おくきす只今暑非常
つうく非常に面白くゆひき草鞋
くひも痛く雨をシヤツまをとりて
ながに濡れて居るが話はおどろ

あり土産はたいおれがけ 井の頭はあ
そら何とぞ中ををふ地圖を
展べて踏破し多岐山川の言現成
は関より入るよりくち

杯破墨迹益は繁繁くく
多分諸一昨日新 閉まは廣告
相成供新柄を地見本信柄種

取交せ玉急は送附にされ多く
尚直段に安も精は勉強の上
は知れせりさるる交り以上

淨慈山主入院中、度、是、蘇、下、れ
は、厚、情、の、程、難、た、は、程、申、上、僧
法、強、振、り、可、病、氣、を、主、持、能、作、也

止、院、情、の、留、心、に、下、度、は、尚、四、五、
間、を、靜、養、す、と、主、持、堅、決、の、意、を、
之、の、り、に、留、心、時、亦、上、は、主、持、の、意、を、

能亦何家此君へも重きは侍聲
可も先ハ一石のほ様抄とそふ果
春暖右傳の安は兩親様如あす一回

何れに侍りもそふは存心や 先日来
学季誠語之あり前園之里久
結了は結果いかに安んずる安

在りて表はる事優等此
成續を得たれ一は兩親様乃
は後一は諸先生之恩と涼く

奉感承り奉仕せり證書頂戴仰州
上歸者得る處へ亦所安んば
此報より奉りて敬白

裏表紙 欠

